



J. FRONT RETAILING

2025年11月17日

会社名 J.フロント リテイリング株式会社
コード番号 3086
代表者名 代表執行役社長 小 野 圭 一
お問合せ先 コーポレートコミュニケーション室
TEL 03-6865-7621

2025年10月度 J. フロント リテイリング 連結売上収益報告（IFRS）

1. セグメント別売上収益（売上高）（対前年増減率：％）

	売上収益(IFRS)		(参考)総額売上高	
	10月度	下期累計	10月度	下期累計
百貨店事業	10.2	10.4	8.2	6.9
SC事業	8.0	5.6	12.0	9.5
デベロッパー事業	▲ 24.2	▲ 15.7	▲ 24.2	▲ 15.7
決済・金融事業	10.3	5.0	10.3	5.0
その他	10.2	21.3	11.4	22.1
連結合計	4.1	6.3	7.8	6.8

※注） 1. 当社は2017年3月から国際会計基準(IFRS)を任意適用しています。
2. 総額売上高はIFRS売上収益のうち「百貨店事業」の消化仕入取引を総額に、「SC事業」の純額取引をテナント取扱高（総額ベース）に置き換えて算出しています。
3. 各セグメントの対前年増減率は、それぞれを構成する事業会社の単純合算により算出しており、セグメント内消去を含みません。
4. 松本PARCOは、2025年2月末日をもって営業を終了しました。

2. 事業別の概況

1) 百貨店事業

- 10月度の売上高は、訪日外国人売上が前年実績を大幅に上回ったことに加え、外商売上が好調を持続したほか、急な気温の低下により秋冬物衣料品が動いたことなどから、大丸松坂屋百貨店合計では対前年9.3%増、関係百貨店を含めた百貨店事業合計では同8.2%増となった。
- 大丸松坂屋百貨店の免税売上高は、対前年18.9%増（客数同20.5%増、客単価同▲1.4%減）となった。大丸松坂屋百貨店の国内売上高（免税売上の本年・前年実績を除く）は対前年7.7%増であった。
- なお大丸松坂屋百貨店の11月度の既存店売上（法人・本社等を除く）は、外商売上が好調を持続していることに加え、訪日外国人売上也前年実績を大きく上回っていることなどから、16日までの累計で対前年7.3%増で推移している。
- 11月度の免税売上高は対前年18.2%増（客数同18.1%増、客単価同0.1%増）、国内売上は同5.7%増で推移している。

2) SC事業

- 店舗別では、訪日外国人客の取り込み強化や改装効果などにより全店舗が前年を上回り、全店計で対前年12.0%増（既存店同12.9%増）となった。特に、新規大型キャラクターショップ等の改装効果などにより、渋谷PARCOが対前年27.6%増、名古屋PARCOが同13.0%増、仙台PARCOが同12.9%増の大幅伸長となった。また、訪日外国人客の取り込み効果が大きかったPARCO_ya上野は対前年25.2%増、錦糸町PARCOが同14.9%増となった。

3) デベロッパー事業、決済・金融事業、その他

- デベロッパー事業は、パルコスペースシステムズが減収となったほか、J.フロント建装が前年のホテル内装工事や百貨店改装工事の反動減などにより減収となり、全体でも減収となった。
- 決済・金融事業のJFRカードは、ポイント費用が増加したものの、新カード発行に伴い加盟店手数料が増加したことなどにより、増収となった。
- その他は、卸売業の大丸興業が、自動車部品が減収となったものの、電子デバイスの好調持続により増収となり、全体でも増収となった。

【お問合せ先】 J.フロントリテイリング株式会社 コーポレートコミュニケーション室
IR推進担当 TEL 03-6865-7621
グループ広報担当 TEL 03-6865-7616

2025年10月度 百貨店事業 営業報告(総額売上高)

1. 売上高および入店客数（対前年増減率：％）

	10月度		下期累計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
大丸 心斎橋店	11.1	19.0	10.2	16.8
大丸 梅田店	7.4	17.7	9.7	15.5
大丸 東京店	6.2	6.5	3.1	4.6
大丸 京都店	2.8	2.6	▲0.8	▲1.8
大丸 神戸店	9.3	3.5	6.4	0.1
大丸 須磨店	▲3.0	9.2	▲5.9	5.9
大丸 芦屋店	2.7	2.0	2.6	1.2
大丸 札幌店	4.6	2.2	1.5	▲0.6
大丸 下関店	0.2	1.1	▲6.1	▲1.3
松坂屋 名古屋店	13.2	1.0	13.1	▲0.7
松坂屋 上野店	▲2.0	4.1	▲4.5	1.3
松坂屋 静岡店	0.1	▲1.9	▲7.2	▲5.0
松坂屋 高槻店	▲1.2	2.9	▲1.0	1.7
店 計	7.6	8.1	5.7	5.7
法人・本社等	52.9	－	79.6	－
大丸松坂屋百貨店合計	9.3	8.1	8.5	5.7
うち商品売上高	9.2	－	8.5	－
うち不動産賃貸収入	11.0	－	8.1	－
博多大丸	▲4.0	2.3	▲11.1	0.6
高知大丸	▲3.6	▲7.9	▲3.8	▲6.1
百貨店事業合計	8.2	7.6	6.9	5.3

2. 大丸松坂屋百貨店 商品別売上高（対前年増減率：％）

	全店計	
	10月度	下期累計
紳士服・洋品	1.1	▲1.6
婦人服・洋品	10.1	7.5
子供服・洋品	▲3.6	▲6.8
その他の衣料品	▲12.9	▲11.3
衣料品計	8.6	6.1
身 回 品	41.5	55.4
化粧品	11.1	11.2
美術・宝飾・貴金属	2.7	1.3
その他雑貨	5.4	7.6
雑 貨 計	6.6	6.1
家具	0.3	5.0
家電	▲22.8	▲22.2
その他の家庭用品	▲11.8	▲9.6
家庭用品計	▲9.5	▲6.7
生 鮮	▲1.7	▲2.2
菓 子	15.4	19.0
惣 菜	2.7	1.3
その他食料品	6.0	3.5
食料品計	7.0	7.4
食堂・喫茶	7.5	5.5
サービス	17.0	9.4
そ の 他	14.1	11.7
合 計	9.2	8.5

3. 営業概況

- 婦人服・洋品は、10月後半の急な気温の低下により秋冬物衣料品が活発に動いたほか、ラグジュアリーブランドが好調に推移したことなどにより、対前年2桁増となった。紳士服・洋品は、コートなどの秋冬物衣料品の売上が伸びたことなどから、対前年プラスとなった。身回品では、訪日外国人客数の増加に伴い、アクセサリー、ハンドバッグなどが好調だったことなどにより、前年実績を大幅に上回った。雑貨では、化粧品が好調を持続したほか、外商顧客向け催事の好調などにより、宝飾品が前年実績を上回った。食料品では菓子が大きく売上を伸ばし、全体でも対前年プラスとなった。

2025年10月度 パルコ店舗 テナント取扱高報告

※「テナント取扱高」とは、パルコ店舗におけるテナント取扱高(売上)の合計値で、前年の値も同じ基準で集計いたしております。

1. 店舗別テナント取扱高(対前年増減率：%)

	10月度	下期累計
札幌PARCO	3.9	2.7
仙台PARCO	12.9	12.0
浦和PARCO	11.1	9.8
池袋PARCO	11.4	5.0
PARCO_ya上野	25.2	21.3
ひばりが丘PARCO	4.3	5.1
吉祥寺PARCO	14.6	10.7
渋谷PARCO	27.6	25.3
錦糸町PARCO	14.9	8.5
調布PARCO	10.1	6.6
静岡PARCO	6.6	1.6
名古屋PARCO	13.0	13.6
心斎橋PARCO	13.0	13.4
広島PARCO	0.4	▲1.6
福岡PARCO	4.4	1.5
全店計	12.0	9.7
既存店計	12.9	10.7

※注) 1. 松本PARCOは、2025年2月末日をもって営業を終了しました。
2. 既存店計には、松本PARCOの前年実績を含みません。

2. アイテム別テナント取扱高(対前年増減率：%)

	全店計	
	10月度	下期累計
衣料品	10.1	5.1
身回品	6.6	5.0
雑 貨	20.5	21.2
食 品	1.6	0.9
飲 食	2.5	1.4
その他	18.8	13.7
合 計	12.0	9.7

3. 営業概況

- ・ 店舗別では、訪日外国人客の取り込み強化や改装効果などにより全店舗が前年を上回り、全店計で対前年12.0%増（既存店同12.9%増）となった。特に、新規大型キャラクターショップ等の改装効果などにより、渋谷PARCOが対前年27.6%増、名古屋PARCOが同13.0%増、仙台PARCOが同12.9%増の大幅伸長となった。また、訪日外国人客の取り込み効果が大きかったPARCO_ya上野は対前年25.2%増、錦糸町PARCOが同14.9%増となった。
- ・ アイテム別では、雑貨が対前年20.5%増と前年を大きく上回り、アニメやゲーム系コンテンツのキャラクター雑貨の好調により、名古屋PARCO、渋谷PARCO、心斎橋PARCOを中心に伸長した。
その他は、コンテンツのヒットによるシネマの伸長により対前年18.8%増と前年を大きく上回った。